

家庭数

平成28年11月30日
(2016年)

保護者の皆様へ

吹田市立吹田東小学校
校長 大森 政彦

平成28年度 全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、6年生を対象として、『全国学力・学習状況調査』を本年4月に実施しました。9月上旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページを通じて発表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科は国語と算数ですが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取組となれるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願い致します。

1 結果についての項目

(1) 国語

《概要》

国語A(『知識』に関する問題)

全体的に全国値をやや下回っている。漢字の読み書きについては、全国値を上回っているものもあった。また、話す・聞くことについての問題については全国値をやや上回っていた。

国語B(『活用』に関する問題)

全ての問題で全国値を下回っている。また、特に記述の問題については無回答率が高く、課題としてあげられる。

《各領域における成果と課題》

○「話すこと・聞くことについて」

知識：全国値をやや上回っている。

活用：全国値を下回っている。特に記述式の問題や2つの資料を見て、登場人物の意図を捉える問題の正答率の低さが目立つ。

○「書くことについて」

知識：全ての問題において、全国値をやや下回っている。

活用：全ての問題で全国値を下回っている。特に記述式で解答する問題に関しては無解答率の高さが目立つ。選択問題でも問題文が長いと無回答率が上がる傾向がある。

○「読むことについて」

知識：全体的に全国値をやや下回っている。

活用：全ての問題において全国値を下回っていた。目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか記述で答える問題では正答率も低く、無解答率の高いことも課題となっている。

○「言語活動について」

知識：漢字の読み書きについては、全国値をやや上回っているものの、ローマ字については全国値を下回っている。

◎国語科における成果と今後の指導改善点

- ・基礎的な問題については、結果が全国値を上回るものもあり、日頃の取り組みの成果が少しずつ現れてきているものにとらえている。しかしながら、応用問題では、無回答率が高いなど引き続き課題が見られる。
- ・国語科や総合的な学習の時間に行う班活動やスピーチ活動などで、自分の考えを述べる発表の場と相手の意図を考えて聞く場を多く設定し、目的を持って「話す」「聞く」経験を多く積ませていくことを続けていく。
- ・普段の授業から自分の考えを文章で記述したり、資料から読み取った内容を記述したりと、書く活動を多く取り入れることで、記述式の問題への抵抗を減らす。
- ・テーマや目的をはっきりさせた上で、文章を書く機会を多く設定し、書く力を定着させていく。また、問題に即した文のかたちで答えることを意識づける。
- ・授業での読み取り教材を要約したり、何を聞かれているのかを考え自分の考えも織り交ぜながら、発表したりする機会を多くもたせるようにする。
- ・問題文の長い問題での正答率が特に低いので、根気よく読むことができるように読書や放課後図書館開放により、本を読む機会を増やす取り組みを引き続き行っていく。また、読書をすることで漢字を読む能力も上がっていくと考える。

(2) 算数

《概要》

算数A (『知識』に関する問題)

全体的な正答率は、大阪府・全国値をやや下回っていた。しかし、「図形」領域の正答率については大阪府・全国値とほぼ同じ結果となった。問題文が長くややこしそうな問題については無回答が目立った。

算数B (『活用』に関する問題)

ほぼ全問において全国値を下回っている。問題文が長い問い、示された考え方に沿って、言葉や式で表すことを求められる問いにおいては、特に無回答率が高い結果となった。

《各領域における成果と課題》

○「数と計算」

知識：加法減法の問題についての正答率は、大阪府・全国値をやや上回っていたが、小数分数の入った乗法除法になると大阪府・全国値を下回っていた。

活用：長文問題ではあるが、長方形の面積を求める式を答える問題は正答率が、大阪府・全国値とほぼ同じである。言葉と式を用いて考え方を説明する問いに対しては正答率が低く課題が見られる。

○「量と測定」

知識：割合のような問題形式だと、正答率が大阪府・全国値を下回っていた。

活用：自分で式と答えを考えるもの、示されている式がどのような考えに基づいたものかを短い文で問うものについては、大阪府・全国値をやや下回るものの、一定の成果が見られる。

一方で、考え方を図や式を用いて示され、その考え方に沿って問題を解く事を求められる問いについては、考え方や図や式が表していることを十分に理解できず誤答や無回答が目立つ。

○「図形」

知識：面の位置関係については正答率が大阪府・全国値がやや上回っていた。が図形の構成になると正答率が大阪府・全国値をやや下回っていた。

活用：他の領域の問題と同様に、示された考え方や数値が何を表しているかの理解に課題が見られる。一方で三角定規を組み合わせてできる図形を問う問題のような視覚的に具体的なものがある問いは、全国値を上回っており、問題を解決しようとする意欲や図形についての理解に一定の成果が見られる。

○「数量関係」

知識：計算による問題については正答率が大阪府・全国値をやや下回っていた。特に、大きさを表す割合については正答率が大阪府・全国値を下回り、課題が見られた。割合の概念を理解していないためと考えられる。

活用：グラフから読み取れることや必要な数値が何かを求める問いについては、全国値を上回る。また、やや下回るものも一定の正答率の向上が見られ、グラフの活用については取り組みの成果が見られる。

◎算数科における成果と今後の指導改善点

知識に関する問題では、四則演算についてはある程度できるが、小数分数が入ると誤答が目立った。小数・分数・割合といった視覚的に捉えにくい概念の理解が必要である。家庭での反復練習や復習問題を定期的に取り組み必要がある。また、単元はじめの導入及び量感や感覚をつかませるために具体物を使う等授業を工夫改善していく。今年度より取り組んだ「チャレンジタイム」も小さな達成感の積み重ねにより、自尊感情を高め意欲の向上、及び1年生からの復習に取り組み既習学習の定着を目指す。

活用に関する問題における課題より、授業において単に式と答えを問うだけでなく、なぜそう考えたのか過程を大切に、考え方を式や図を用いてノートに書き表す力、また、それをわかりやすく説明する力を育むことができるよう授業の改善、研究を進めていく必要がある。また、長い問題に対する無回答率を減らすため、国語の読解力や根気よく問題に取り組む姿勢を家庭学習も含め日々の授業の中で意識づける。

2 生活習慣や学習環境（児童アンケート）に関する調査結果

【学力調査、教科・学習について】

○国語の勉強の意識を問う項目

- ・「国語の勉強は好きですか。」の項目では全国値より割合が下回り、「国語の勉強は大切だと思いますか」や「国語で学習したことは将来役に立つと思いますか」の項目でも全国値を下回っている。
- ・「読書が好きですか。」の項目では全国値を上回っている。
- ・意見を発表するとき話の組み立てを工夫したり、考えを書くときに理由がわかるように、気をつけて書いたりしているかを問う項目では全国値を下回っている。
- ・「今回の国語の問題について文章で書く問題にはどのように答えたか」を問う項目では、解答しなかったり解答を途中であきらめたりしたものがあったと答えた割合が全国値を上回り、全く解答しなかったと答えた割合も上回っている。

○算数の勉強の意識を問う項目

- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」の項目は全国値を下回っているが、「算数の勉強は好きですか。」の項目では好きと答えた割合は上回っている。

「算数の勉強は大切ですか。」、「算数の授業で学習したことは将来役立つと思いますか。」の項目では、高い割合で大切であると答えている。

- ・「算数の問題の解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか。」の項目では、全国値を下回っているが、あきらめないでがんばろうとしている割合は低い。

【学習環境・生活環境について】

- ・「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」「家の手伝いをしていますか」の項目では、全国値をやや上回っている。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人が困っているときは進んで助けていますか」の項目では全国値をやや下回っているが、高い割合になっている。
- ・「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」の項目では、全国値より下回っているが、高い割合になっている。
- ・「将来の夢や目標をもっていますか」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」などの項目では全国値より下回っている。
- ・「自分の考えや意見を発表することは得意ですか」「友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の項目では、全国値を下回っている。
- ・「自分にはよいところがあると思いますか」の項目では、全国値を下回っている。
- ・「テレビ、ビデオ・DVDを見る時間」は全国値より高くなっている。

3 今後の取り組み

今年度の重点目標は、日々の授業を通して「自尊感情を育む」ことです。子どもたち一人ひとりが「できる喜び、わかる喜び」を中心とした達成感が得られるよう、教育実践を積み重ねています。

また、努力目標の“テーマ”を、「コミュニケーション力の育成」～伝え合う力を育もう～、“目指すこども像”を「相手の気持ちを受け入れ、自分の思いを表現する姿」、「つきたい力」を「言語能力（話す・聞く、語彙力）」と設定しています。各学年の研究授業を国語科でおこない、研究会を持ち授業改善に取り組むなど、確かな学力づくりに務めています。

教科指導におきましては、算数科において、少人数指導を3年生から5年生で実施し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図っているところです。また、今年度より「チャレンジタイム」として、学校全体で算数の習熟度別プリントに取り組んでいます。自分に合った課題を自分のペースで行う等個別学習の実践も始めています。

「国語・算数などの勉強が好き、大切だと思う、将来役に立つ。」などの勉強への意識を高めていけるように授業の工夫や改善に努めていきます。また、勉強は大切だと考えていても「学習したことが将来役立つ」というように自分の将来に今はまだつながりにくい状況が見られます。将来の夢や目標をもち始めるこの時期に、キャリア教育をはじめ、さまざまな場面で未来への展望を意識できるように実践に取り組みます。

さらに大きな課題として、無回答率の高さが上げられます。特に問題文の長

い問題では、正答率が低く、無回答率も高くなっています。根気よく問題に取り組ませるために、教材等の工夫をするとともに、がんばった取り組みに対して努力したことをほめて成功体験を積み重ねていき、「やればできる」という意識をつけていきます。このような自己有用感を育むことが、将来子どもたちに何か問題が起こったときに、あきらめず解決していく力となりますので、地道に取り組んでいきます。

生活習慣や学習環境の結果を見ると、自分や友達の良さを実感したり、自分の意見をすすんで発表・発言したりする事に課題が見られました。今年度も自尊感情を高め、他者理解を深められるように全校で取り組んでいますが、引き続き話し合いや意見交流の場面を多く設け、コミュニケーション力を育て、自己肯定感を高めていけるような取り組みを進めていきたいと考えています。

学習習慣を身につけ学習内容を定着させるには、ご家庭の協力が必要です。『宿題をする』『テレビやゲームの時間を減らして読書や勉強をする』『明日の準備をする』など、自分から進んで計画的に学習できるようにご家庭でもお声かけや見守りをよろしくお願いします。今年度は、中学校ブロックで家庭学習について取り組み、自分で家庭学習をふりかえる機会を作りました。

これからも、学校や友だちの話をする機会を多く持っただき、ご家庭と学校とが連携し合って、子どもたちの成長を促進していきたいと思ひます。